令和４年度 第２回ふるさと館運営協議会顛末

日　時：令和 4 年 11 月 17 日（水）午後 3 時 00 分～4 時 15 分
場　所：飯山市ふるさと館　学習室
出席者：千坂経悦、武田　誠、大日方良彰、大口今朝志各委員
　　松木教育長、田中文化振興部長、事務局 4 名
欠席者：木原利幸委員
進　行：小林補佐

１　開　会
（部　長）令和 4 年度、第 2 回運営協議会を開会します。

２　あいさつ
（教育長）コロナが再拡大しているが、できるところはしっかりと市民のための「ふるさと学習」「生涯学習」を行っていきたい。R7 年飯山市北部の小学校 4 校が統合となるが、各小学校や地域の人々から「これからの地域学習はどうなるのか」関心が非常に高まっている。コミニュティスクールの再編成や各地区公民館・子ども会・育成会活動のなかでもふるさと学習の在り方を再確認しながら取り組んでいきたい。ふるさと館はふるさと学習の核になる場所。何を企画し発信してゆくか大事になってくる。積極的なご意見を頂きたい。
（千坂会長）灯篭祭り、えびす講が規模縮小で行われたが、各集落の祭礼は姿を消しつつあるところもある。祭りが地域をまとめてきた歴史もある。今年の企画展に祭り展があるが、シリーズ的にこれからも祭りを取り上げていくべき。先人の想いをつなぐ企画をこれからも期待したい。

３　協議事項（進行：補佐）
　① 令和 4 年度 10 月末までの事業経過について
（事務局）資料に基づき説明
（進　行）質問等ありますか。
（会　長）入館者数の関係だが、市外からの来館数はどれくらいか？
（事務局）事前予約の団体等の場合は市外市内を把握できるが、一般の来館者については把握が難しい。
（会　長）ふるさと館以外の施設についてもいえるのだが、来館については観光とのつながりが不可欠。観光サイドともっとタイアップしたらどうか。美術館・伝統産業会館とも連携しながら「情報発信」に力を入れるべき。パンフやチラシ類を飯山駅や長野駅の各市町村のPRコーナーにも置かせてもらうとか。
また同時に、来館の子ども達や若い世代にさらに興味を持ってもらえるような展示・表現を期待する。歴史というとご年配の皆さんへは届きやすいが、

中高生等、若い年代へもアプローチできればいい。

（事務局）確かに体験講座や出張講座などほぼ小学生がメインという状況。中高生に刺さる組み立ては難しい面もあるが、工夫しながら進めていきたい。

（会　長）行政の枠組みのなかで難しい面もあろうが、飯山に限定せず北信地域広がる経済圏での組み立ても可能かと。農林高校でのそば打ち活動や歴史探訪活動などの取り組みや、飯山高校でも最近、課題研究といって地元のことを学習していこうという機運が高まってきている。そこへつながるような、企画や取り組みも良いと思う。

（教育長）関連して。武蔵国分寺が史跡となり 100 年ということで、今年 4 月に飯山市との友好都市である国分寺市へ視察に行った。その際国分寺市教育長から、地元の生涯学習課の学芸員さん（30 代男性）が素晴らしいという話を聞いた。地元の子ども達への説明が、本当に興味を引き付けるようなものであると。視察の際に行われたシンポジウムに、その学芸員さんが登壇しており、幸いにも話を聞くことができたが、たいへんわかりやすく、熱意を持って話されており、感心した。

ふるさと館においても、テーマを持って小中高生に向けアピールを。例えば「飯山城」、成り立ちや変遷を若い年代にわかりやすく伝えてほしい。小菅や正受庵も。子どもたちが自主的に探究していきたくなるような仕掛け、きっかけ作りを。子どもたちが大人になったときに地域の宝ものをもっと意識できるんじゃないかと思う。

（委　員）旭の公民館開催の「富倉峠ウォーク」に 2 年連続で参加させてもらったが、地域を学ぶことの大切さを改めて認識した。小佐原にはかつて「牛宿」だった家が屋号もそのままにまだ残っている。地域発見につながる。

（教育長）地域学習コースを作り、それが観光につながるような取り組みも良い。

（会　長）新幹線の座席の前ポケットに入っている「トランベール」にPR広告を掲載できると思うので、ふるさと館もどうか。人形館はときどき掲載されているので。

（事務局）頂いた意見を参考にしながら進めていきたい。

② 令和 5 年度ふるさと館事業計画について

（事務局）資料に基づき説明

（進　行）質問等ありますか。

（会　長）冬の「山城展」、ジオラマを用意したら面白いと思うが。

（事務局）検討したい。

（委　員）5 年度予定の「閉校記念展」は、どんなイメージか。12 月に 4 小学校担当教諭で集まるのだが、各学校の文化財をリスト化していきたいと考えている。１，２メートルの各学校ごとのブースがあって、そこに展示するというイメ

ージ？

（事務局）展示内容等について皆様に相談したい。学校のお宝展のようなものが良いのか、地域として取り上げていくのが良いのか、色んな切り口があると思う。学校の先生方と相談しながら進めるのが良いように思っている。7年の統合を前に5年度に2校分、6年度に2校分で開催できれば。地域の特色があると思うので、4校とも同じ切り口で良いのか、具体的でなく恐縮だが、
そこも相談したい。
開催の時期はいつ頃が良いでしょうか。

（委　員）（窓口的には）各校の教頭が担当することになると思うが、確かに切り口によっては学校側も準備していくものが変わってくるので、早めにお伝えいただきたい。

（委　員）5年の７～８月ならば、早急だ。季節的には良いと思うが。

（教育長）まずはその学校の歴史。特徴。そして所蔵している文化財（お宝）。東小にある佐藤武造の大きい絵画など。ふるさと館だけでは狭いとなったら、美術館辺りも視野に。ここで展示できるに越したことはないが。

（事務局）みなで協議が必要。基本的には変遷や歴史。それに伴う写真資料や文化財（お宝）が中心ということで良いか。

（教育長）そこに地域性が自ずとにじみ出てくれば良い。例えば、常盤小なら「平用水の石樋」などで地域の歴史も見えてくるように。4校となる前の学校の歴史も。過去、現在、そして未来へつながるように。
展示されていない学校の子どもたちが見に来て、「こんど一緒になる学校はこんな学校なんだ」と知ってもらえるような。

（委　員）統合になる前の各学校に入れなくなる前に地域の皆様に向け、「学校見学会」も考えている。学校の歴史に関わるようなものも展示できたら。そんな取り組みとも連動していけたらより良いのかなと思う。見学会は、前年度の、（統合直前という気運が）盛り上がってきたときになるかなと思う。夏休みの期間に、最後に学校へ入っていただくイメージ。

（教育長）大日方委員は、ふるさと学習カリキュラムの委員長でもあるので、展示について、連携を取って進めてもらいたい。

（事務局）学校には古い写真も残っているのか。

（委　員）調査はこれから。地域にも呼び掛けたい。記念誌を作ることになると思うので。

（教育長）記念誌の発行は、令和6年度末だね。

（委　員）旧外様小など、かつての「閉校記念誌」も参考になるのでは。

（委　員）どこまでさかのぼるか、ということも考えないと。
4校紹介するときに、どこまでさかのぼるかを、ある程度合わせる必要があると思うが、泉台小と常盤小では学校の歴史の長さも違う。

（教育長）明治のころから統合までの変遷が良いように思う。

（委　員）大平分室や涌井分校などを取り上げるのも面白いと。

（教育長）展示が始まれば、地域の皆さんも大勢来てくれると思う。
（部　長）企画展の数を減らしても、ある程度お金をかけて開催したらと思う。準備期間もしっかり必要。
（教育長）確かに、来年の夏休み頃では間に合わない。
（委　員）図録も作って販売しても。
（事務局）では、5年度は準備期間で6年度に開催の方向で。
（委　員）先ほど意見で出た山城のジオラマに賛成。戦国時代またはそれ以前の地域の歴史を伝えるものになる。予算等もしっかりつけ、取り組んでもらいたい。関田山脈へつながる村の山の地形を調べたことがある。地域を学ぶことにつながる。外様小学校に、昔ジオラマ模型があったが。
（教育長）飯山小にも城山のジオラマがあると思う。
（事務局）やり方など調べ、検討していきたい。
（委　員）「学校展」のほうは、ふるさと館からイメージをお伝えいただき、学校側ではモノを提供するという形をとりたい。
（教育長）新市長の公約にある「情報発信」は、どう取り組むのか。
（事務局）SNSのこと？
（教育長）それだけじゃなく、「文化の香り高い飯山市をひろく紹介し、観光につなげていく」という観点で、たとえばどんなものが紹介できるのか、考えてもらいたいということ。インスタ映えも大事。特に景色。
（部　長）お祭りの発信。季節や分野ごとの魅力。景勝地、民俗的なものや、「食」も。さまざまなものが紹介できる。
（委　員）移住者に聞いても、飯山の魅力は「景色、食、人々」と聞く。
（教育長）ふるさとの良さをアピールする生涯学習的な要素からはじめ、最終的に観光につながるのがベスト。ツールとしての、インスタ。
（事務局）課題として取り組みたい。

4　その他
※冬の企画展の紹介

5　閉　会
（部　長）それでは、これで第2回運営協議会を閉会します。本日はお忙しい中ありがとうございました。